

「税を考える週間」について

11月11日から17日までの一週間は、「税を考える週間」です。

これは、租税の意義や役割を考え、税務行政に対する知識と理解を深めていただくための取組で、毎年この期間中は、国税局や税務署を中心として、関係民間団体等が連携しながら、税に関する作文の発表などが行われます。

「税を考える週間」の歴史は古く、昭和29年の「納税者の声を聞く月間」から始まり、何度かの見直しと改称を経て、平成16年から現在の名称になっています。

国税庁ホームページには、「暮らしを支える税」をテーマとした特設ページが設けられ、国税庁の各種取組について紹介されています。

税は、私たちの生活に欠かすことのできない道路、上下水道などのインフラ整備、警察・消防、教育、社会保障などの充実した公共サービスを行うための大切な財源です。

大雨や地震などの自然災害で被災した施設などの復旧や、新型コロナウイルス感染症に関するさまざまな支援策などにも、税が使われています。

この機会に、改めて、私たちの生活と税の役割について考えてみませんか。

なお、「税を考える週間」の期間中の催しについては、各税務署にお問い合わせください。

〔県税・市町村税インフォメーション〕

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/soumu/zeimu/top.html>

〔国税庁の取組紹介〕

<https://www.nta.go.jp/about/introduction/torikumi/week/index.htm>